

## 平成 29 年度仁淀川清流保全推進協議会（第 2 回）議事録

日時：平成 30 年 1 月 17 日（水）14:00～16:00

場所：いの町 かんぼの宿伊野 1 階 中会議室

出席者：[委員]石川会長、井上副会長、大石委員、大下委員、新宅委員（代理：岡林副所長）、中澤委員、西森委員（代理：山本総括部長）岡村委員（代理：松本計画課長）、吉村委員、田岡委員、山崎委員、森下委員（12 名）

[随行者]四国森林管理局 川田流域管理指導官（1 名）

[事務局]環境共生課 三浦課長、三好課長補佐、遠近チーフ、高橋主事（4 名）

### 1 高知県林業振興・環境部 環境共生課長あいさつ

- ・委員の紹介
- ・会の成立を報告
- ・「審議会等の会議の公開に関する指針」に基づき、審議内容をホームページで公開することの了承を得る。
- ・石川会長が議事進行を務める。

### 2 議事

#### (1) 川の安全教室の実績について

- ・事務局から【資料 1】を用いて説明

#### (大下委員)

私も参加していて、非常に充実した講義だったと感じている。参加者数 17 名ということで、今後もこういった取組で学んでいく人を増やしていく必要があると思う。来年度以降どのようににされるか、予定か案があればお聞きしたい。

#### (事務局)

来年度については、もう少し時間をかけて学びたいという声があったことから、座学と実習を分けて 2 日間での開催を考えている。今後の仁淀川の安全対策を進めていくうえで、思いの共有が必要ということで、終わった後のワークショップを 1、2 回開くことを考えている。そうなる講師の謝金や会場の借上料が増えてくるので、会長及び副会長に相談しながら、また、河川財団の基金でこういった活動に対して助成金を出しているの、それに応募をしている。応募が通れば実施できるが、6 月の第 1 回全体会で説明したように、費用負担がネックであり、懸念事項として残っている。

(大石委員)

参加者の年齢構成はどんな状況だったか。

(事務局)

若い方は20代から、最も多かったのは30代、40代。60代、70代の方にも参加していただいた。

(井上副会長)

職業割合はどうか。先生方にも声をかけていたと思うが。

(事務局)

学校にも案内していたが、開催時期が運動会等と重なっていたこともあり、学校現場からは宇佐の海洋高校の先生に参加いただいた。あとは行政職員、流域で実践活動をされている方などであった。また、委員の方にも3名参加していただいた。

(大石委員)

今後いろいろなことを含めて、河川全体でこういった取組をしてはどうかと思います。

(事務局)

今回、RACによる研修を初めて開催した。お金の話を置いてという話にはなるが、今後流域で研修会をできるような人材を育てていって、例えば学校と一緒に子どもたち向けに川の安全教室を実施できるような形にしたいと思って取り組んでいる。

(石川会長)

後のシンポジウムするときにも話が出るが、ワークショップのテーマにも子どもを川に呼び戻すとあるため、そこでまた川の安全について考えていただきたいと思う。その際にご意見あればお願いしたい。

(2) 第7回仁淀川一斉清掃の実績について

・事務局から【資料2】を用いて説明

(井上副会長)

仁淀川町会場でゴミの量が増えているのは、汚くなったというよりは先ほど説明があったように、前日の増水によるもの。ゴミというよりは木の枝や草が手すりなどに

引っかかって、取りきれないほどあった。そういったことから、若干ゴミの量が増えているのかと思われる。川全体が汚れているという印象ではなかった。

(石川会長)

ビニールといったゴミは少なかったか。

(井上副会長)

あるにはあったが、そんなに目立ってはいなかった。草等の自然のゴミが多かった。

(石川会長)

これまで続けてきて、だいぶ流域に定着してきていると思う。天候に左右されて多かったり少ない年もあるが、464名の参加、1トン以上のゴミが取れたということで、仁淀川もきれいになったのではないと思う。ただ、参加者が固定されてきているという印象があるので、どうやって他の人に広げていくかが今後の課題と思われる。また思いついたことがあったら教えていただきたい。

(井上副会長)

学校の子どもたちの参加において、クラブの先生でこういった活動に熱心な方がいたときは子どもを連れて出てきてくれたが、担当の先生が変わってしまうと来なくなったりした。また学校にお願いに行ってはどうかと思っている。

(大下委員)

今回の高知市・土佐市エリアでは土佐市側を掃除したが、高知市側のゴミが取りきれない。また春先に掃除をする機会があればしたいと思うが、再三伝えているように、かなりすごい量がある。一昨年で開催されたゴミの勉強会で流域のゴミが河口に集約している現状を見てもらったが、そういった機会を設けて、なんとか取り除いていきたい。

(石川会長)

上流の方は下流のことを知らないなので、足を運んで見てもらえたらと思う。

(大石委員)

今年は特に台風も多く、ゴミの上にゴミが積み重なっている状態だった。それを取り除くのは大変なことと思うが、きれいにしていかなければいけない。気になるのが龍馬マラソンであり、コース上で近くを通ることからその前になんとかできないかと思っている。

(石川会長)

仁淀ブルーといった仁淀川の振興が非常に重要になってくるが、協議会で川のきれいさを守っていきたいと思うし、流域の人にもそういった意識を持ってもらえるようになればいいと思うし、今度のシンポジウムでも頑張りたい。息の長い活動が今後必要になってくる。

(3) 第7回仁淀川シンポジウムについて

・事務局から【資料3】を用いて説明

(石川会長)

この件についてご意見・ご質問はないか。

(山崎委員)

昔の子どもたちは年齢差を超えて川で遊んでいたが、今はそれが無い。また、川へ行かずにプールで遊びなさいという指導がされていることから、川で遊ぶ機会が減っている。責任の在り方がポイントだと思われる。両親の了解のうえで川に遊びに来るということにしないと、いくら声をかけても来てもらえない。

(石川会長)

学校の責任といったことが色々と言われているが、家庭の責任というのも考えていただけたらと思う。そういったこともシンポジウムで話し合っていたきたい。

(大石委員)

シンポジウムの予想参加者数、会場周辺の駐車場はどういった様子になっているか。

(井上副会長)

会場の中央公民館のすぐ隣に駐車場があり、旧吾川中学校のグラウンドも使える。新しくできた仁淀川町役場の周りにも駐車場があるので、対応は可能かと思う。

(大石委員)

参加者は例年何名か。

(事務局)

およそ100名である。

(大下委員)

土地勘のない人は分からないかもしれないので、駐車場の案内をお願いしたい。

(事務局)

仁淀川町役場に相談のうえ、駐車場係を配置するなどして対応する。

(井上副会長)

日高会場の時は会場手前に看板を立てていた。

(石川会長)

その他お気づきの点はないか。

(大石委員)

日高会場のときに喫煙場所の話が出ていた。小さい子どもも来るので、受動喫煙対策のためにも玄関先ではない場所にするなどの配慮が必要かと思われる。その点についても打合せしていただけたらと思う。レイアウトもまた教えていただきたい。

(中澤委員)

1月に行われた下流部会において、シンポジウムのワークショップ報告を仁淀川町役場の職員が行うと聞いたが、その点について大石委員はいかがか。

(大石委員)

詳細については聞いていない。

(井上副会長)

仁淀川町役場の担当係長が若手職員に声かけをしてくれているようで、任せてくださいとのことであった。

(石川会長)

ワークショップのファシリテーター、司会も併せてしてくれる。これまではファシリテーターは慣れた方にやっていただいていたが、最後の落としどころに何とか持っていこうという動きがあったとの意見があったため、もっと自由に話せるように、結論が出なくてもいいので、とにかく多くの意見を出していただくということで、フレッシュな若い方に司会をお願いすることになった。

(山崎委員)

過去のワークショップではまとめようとする意識が強かった。それがおかしいなどは思っていた。今回、結論が出なくてもいいということであれば、いろんな意見が出てくると思われる。

(井上副会長)

話がそれすぎないように、慣れた方にも側にいてもらってサポートする仕組みになっている。

(事務局)

できましたら委員の方々にも当日参加していただき、オブザーバーとして協力いただければと思う。

(石川会長)

今回で流域市町村が1周して来年度からは2周目になるが、今のうちから方針を決めていく必要があると思われる。アイデア・ご意見はないか。

(吉村委員)

仁淀川漁協では、例年8月末に仁淀川の森と水を考えるシンポジウムを開催している。130名から150名程度の参加があり、懇親会にも多くの人に来てくれる。しかし、組合員等を除いた参加者は限られた人たちである。組合長になった昨年の春から、私たちの仁淀川シンポジウムも何か考えなければならぬと思っていた。先ほど会長が言ったように、新しく迎える1回目ということで一緒に考えていけたらいいのではないかと役員とも話している。もう少し時間をとって、ざっくばらんに川を考える会というのもいいかと思っている。懇親会をやるのであれば、漁協で段取りしたいと考えている。よろしくお願ひしたい。

(石川会長)

流域の皆さんと一緒に盛上げていけたらと思うので、よろしくお願ひしたい。

(大石委員)

いろんなシンポジウムをやっているが、メンバーがほとんど同じで広がりが無い。

(石川会長)

いろんな方に来ていただきたいのが一番の思ひである。同じ方に一生懸命意見を言っていたくのも大変ありがたいが、あまり川に関心のない人、なかった人も来てい

ただけるようなシンポジウムにできたらと思う。

(大下委員)

目的の中に地域の交流を進める、流域の取組事例を公表して関係機関で考えていくとあり、市町村や県、国交省との連携が大きく占めている。できれば学校の子どもたちや、大学生も多く住んでいるので、そういった人たちをどう取り込んでいくかを考えると、例えば大学で実施するなど、参加しやすい状況を整えてあげるのも1つかと思う。先日、市内の高校生と話す機会があり、ゴミの問題に関心があるため勉強会に参加したいということ saying していた。今度、仁淀川町でシンポジウムがあることを伝えると、参加するとのこと。ディスカッションするための材料をこちらから提供できる会があってもいいかと思う。その中で仁淀川の現状を知っていただき、できれば河口の掃除に参加してもらいたい。

(石川会長)

シンポジウムもそうだが一斉清掃でも広がりがあればよい。また色々と知恵を出し合って、今まで来ていなかった方が来てくれるようにできたらと思う。どなたも様々な場面でそういった問題を抱えていると思うので、難しいことではあるが考え続けていかなければならない。

(中澤委員)

本日、いの町役場で伊野商業高校の生徒と仁淀川及び地域振興について語るということが行われている。そういったところの力を借りて、高校生目線での意見もいただけるのではないかと思う。

(石川会長)

若い方の参加がもっと増えるようにシンポジウムも頑張っていきたい。

(井上副会長)

高校の再編で仁淀高校がなくなった。他の学校も人数が少なくギリギリの線で生徒の確保に取り組んでいる。そういった高校、ひいては大学の存在をしってもらうためにも、どこかで関わりを持てるプログラムを考える必要がある。海洋高校の生徒と拾ったゴミを細かく分別し、重さを量った。大変ではあるが、そういったものに巻き込んでシンポジウムで発表してもらえば素晴らしいものになるのではないか。学校によって特色も出してもらい、取り上げてもらえれば高校の存続に向けたきっかけになると思う。

(石川会長)

仁淀高校がなくなったのは残念だが、吾北分校が頑張っている。地域で頑張っているところを流域の皆さんに見ていただければよいと思う。

(吉村委員)

小学校で1年生から6年生まで縦割りにした班をつくっての作業を行っているが、高校生、中学生、小学生をまとめて縦割りにした班活動も面白いかと思う。

(石川会長)

若いお父さん、お母さんにもシンポジウムに来てもらい、川について考えてもらえたらと思う。教育委員会など働きかけなければいけないところがたくさんある。今回で流域市町村が一周し、来年度からは2巡目が始まろうとしている。委員の皆さまも是非、ご参加・ご協力をお願いしたい。

#### (4) 仁淀川清流保全推進協議会設置要綱の改正について

- ・事務局から【資料4】を用いて説明

(石川会長)

ご意見・ご質問はあるか。

(大下委員)

全体会が年1回になった場合、時期や内容はどう想定しているか。

(事務局)

これまで1回目の全体会を6月末に実施しているが、アサヒビール株式会社からの寄附金の受入れの都合で、どうしてもその時期になってしまう。ただ、6月にはすでに高知青少年の家と共催でガサガサ体験教室を実施しており、また、河川財団の基金が使えるとなった際には、川の安全教室において学校の先生方にも多く参加していただきたいことから実施時期を早めたい。状況に応じて検討していきたい。

(大石委員)

全体会における役割として、計画の進捗状況の把握と検証があるが、どんな状況か。

(事務局)

毎年、計画に基づいて事業を実施しているが、今のところ美しい景観の保全と子どもたちを川へ呼び戻すというテーマでは一定の進捗があるが、他の項目は中々取り組

みづらい状況である。

(石川会長)

簡単でもいいので、毎回、進捗報告をいただけたらと思う。計画を5年ごとに見直すこととしているが、その際には詳細な進捗の見直しを皆さんに示していただき、次の清流保全計画の改訂につなげてもらえたらと思う。その他ご意見なければ、要綱改正を進めてもらってよろしいか。

(異議なし)

(石川会長)

では、委員の意見も踏まえて改正を進めてもらうようお願いしたい。

(5) その他

(石川会長)

最後にその他の議題に移るが、この全体会は様々な分野の方々に集まっていたいでる貴重な場であるため、どんなことでもいいので意見をお願いしたい。

(新宅委員代理：松本計画課長)

四国森林管理局では仁淀川上流部の国有林を管理しており、清流保全活動に貢献できればと思っている。仁淀川にいくつか危険箇所があると聞いたので探してみたが、情報を得ることができなかった。一般の方が情報を得るのはインターネットからであるため、安全情報等を得やすくすれば仁淀川にアクセスしやすくなるかと思う。四国森林管理局ではなく個人の感想としてになるが、以上である。

(吉村委員)

先ほども話したようにシンポジウムについては今後、一緒に検討していけたらと思う。また、大下委員にも見ていただいたが、オオフサモの駆除を機械で行ったところだめであった。あちこちに点在して大変な状態であり、これから繁殖していくと思われる。駆除の際には、最初にどこに言って話を進めてもらえればいいのか。

(大下委員)

加田の親水公園については、管理自体は土佐市が行っており、重機を入れた駆除作業は土佐市の予算で実施した。その前は、石川会長から要望があったということもあり、国交省と一緒に現場を見て、方法について私から提案した。県、国交省、土佐市、建設業界、ラブリバーの方々と最も正確に除去できる手作業で実施した。今後、相談

する際には土佐市にまず言うていただけたらよい。重機は河川維持の目的もあって使用したが、やはり手作業がよいため、提案してもえればそこから県や国交省に広がっていく流れとなる。早いタイミングであれば、箇所数は多いものの株数が少ないため、手作業でも楽にできるかと思う。

(石川会長)

補足であるが、オオフサモは特定外来種に指定されており、非常に繁殖力が強い。水面を覆って在来の水草がなくなってしまうたり、繁茂することで水の流下阻害を引き起こすなど環境によくない。加茂親水公園においては、市民の方々がアジサイを見に来たりする場所で問題となっており、関係機関の協力を得てこれまで2回駆除を行った。今後も除去していく必要があるが、その際には市民の方たちも巻き込んでいかなければならない。きれいだと言って家へ持ち帰ってしまう人もいる。そういったことに対して啓発もしながら活動していきたい。

(田岡委員)

仁淀協議会に参加するようになって1年が経過しようとしている。先ほど吉村委員が言われたシンポジウムについては、仁淀川漁協の中でも一緒に検討していきたいと思っており、また、委員から離れて地域住民としてどういった形で参加できるか、参加したら面白いかということをしばらくの間考えてみたい。今後ともよろしく願いしたい。

(山崎委員)

3年ほど前から林野庁の事業に関係しており、山へユンボを入れて道をつけたりしている。佐川町は全国的にも恵まれた山があるが、山の問題を考えていく際に、人が集まるための魅力が必要であるため、モデルを作らなければならない。川も同様に面白くなければ人が集まらない。そのためには山と同じくモデル作りが必要である。いい所だと納得してもらえるように時間をかけてやるしか手がないかと思われる。

(森下委員)

前回の全体会で、森が水を育むということで森林環境税の話をしていただいた。明日から森林環境税のパブリックコメントを行うようになっており、5年間延長したいということで県民の皆さまのご意見にお答えするようにしている。高知県の森林環境税は全国に先駆けて平成15年度から始まっており、県民税に500円上乗せして年間1億7,000万程度の税収がある。今年度の3月で15年、3期目が終了する。来年度以降どうするかということを検討してきたが、県民の皆さまで森を守っていくということで、森の大切さや役割を知っていただく取組、それぞれの立場で森林の環境保全に

取り組んでいただくということで、ボランティア活動の支援といった取組をしてきた。残念ながら、ここへきて認知度が若干ではあるが下がってきているということもあり、これまでアプローチできていなかった県民の皆さまにも役割や重要性を知っていただくという取組を、幅を広げてやっていく必要がある。また、ハード事業として荒廃森林の緊急的な整備が必要なところ、CO2の吸収源対策で間伐に重点を置いて取り組んできたが、樹木の年齢が上がってきて資源として成熟化してきている。手入れされずに高齢期へ移行している森林もあるため、間伐が必要な森林の比率は減ってきているものの、まだまだたくさんある状況で、引き続き取り組んでいく必要があることから、さらに5年間延長させてもらいたい考えである。ただ、これまでと違うのは国の森林環境税の導入が盛り込まれていること。これについては林野庁をはじめ市町村に大変なご尽力をいただいた。東北復興の課税が終わって平成36年から始まるということだが、取組は急いでやらなければならないということで、平成31年から借入金で賄いながら事業を進めていくことになっている。ただ、具体的な制度設計はこれからであり、国では条件的に不利な森林を対象としており、経済活動の中で森林整備をするのが難しいところ、市町村が主体になって整備をしていこうという方向性がある。県の間伐、森林整備については消費者に助成することで、これまでできなかったところ、これまで手入れしてきたところを引き続き手入れしてもらえるようにしていく。国の方向性とは違うところがあるが、詳細がまだ決まっていないこともあり、県としては5年間延長させていただいたうえで、来年度以降に国の制度設計を踏まえて見直しを検討していく。明日からパブリックコメントが始まるので、ご意見よろしくお願ひしたい。

(西森委員代理：山本総括部長)

本日、組合町が欠席のため代理で参加したが、内容については持ち帰って報告したい。森林組合としては、出席されている仁淀川漁協により、越知町の黒森山植樹等において3段ほど植栽をさせていただいた。山の整備により、仁淀川にきれいな水を供給するというので、越知町ではさらに長者でツムラの森の間伐を行い、40年生くらい杉・檜の間伐を行っている。仁淀川町ではカワサキの森で毎年2日間の間伐体験実習をしている。今後、森林組合において問題となるのは人材不足であり、仁淀川町の林業家育成事業を活用しながら山の担い手を育成しているものの、まだまだ足りない部分があり、保安林に指定されていないところは切りっぱなしというところが見られる。そのあたりについては、人材育成をしながら切った後には植栽していくというように、山を守り持続ある林業と水資源の保全に努めていくことを今後とも考えていきたい。また組合長が来た際にはそういったことを報告させていただきたい。

(中澤委員)

観光に特化しての話になるが、昨年9月30日に神楽と鮎と酒に酔うのイベントで

は国交省をはじめ、仁淀川漁協に大変お世話になり、約 6,500 人の方に来ていただき、盛大にできたことに厚くお礼申し上げます。なお、平成 30 年度も日程が決定しており、9 月 29 日土曜日を予定している。なぜ早い段階で決めたかという、仁淀川町出身の吉田類さんと呼ぶこととなり、スケジュールを押さえる必要があったからである。6 月 3 日には高知仁淀ブルーライドと称して、仁淀川を自転車で回っていただき、波川公園を出発して、日高村の屋形船発着場、ふれあいの里と吾北に向かっていた、仁淀川町、越知町、佐川町、土佐市、波川公園へ戻ってくる 135 キロメートルのコースとなっている。全国から 300 名の方に来ていただき、前夜祭も行う。また、もう一点、石鎚山系の観光ということで、久万高原町、西条市、いの町、大川村の 4 市町村が協定を結んで登山・サイクリングに関するイベントを計画している。サイクリングイベントの事務局は久万高原町となっており、隣の仁淀川町に協力いただきたいことから、改めて町長にお願いに伺いたい。可能であれば、いの町もコースに入れてはどうかといった意見もある。なお、実行にあたって 5 年の長期計画を練っているところである。

(新宅委員代理：岡林副所長)

一斉清掃をしていただき河川がきれいになってきていると思われる。昨年の水質調査では全国トップクラスできれいな状態を保っているとの結果となっており、水生生物等の指標調査も行っている。今年は新たに日高村で防災教育を行うなど、洪水等に対する安全対策を全国的に認識していただく取組もしている。資料にもある RAC の安全講習についても、すぐではないが来年度の開催に向けて検討を進めているところである。また、特定外来種についても種に応じて協力していきたい。国としても駆除していかなければならないと考えており、土佐市を通じて協力していくので、よろしくお願したい。

(大下委員)

ラブリバーでは、今年新しい仲間が増え、徐々にメンバーを増やしていきたいと考えている。ごみの清掃箇所は監視の目が行き届くようになったこともあり、減ってきている。ラブリバーの協定にゴミの清掃箇所が含まれているが、その場所には国交省に看板を設置していただいている。そういったのが一定抑止力になっていると思われる。年間を通して現場を見ていると、この間掃除したのにまたゴミが増えているということがある。以前にもお伝えしたが、捨てるのは最終手段になる。シンポジウムのワークショップを通じて、捨てない仕組み、捨てないようにするにはどうしたらいいのかを考えていく必要がある。観光客が増加するのは、高知県の産業として大変嬉しいことであるのだが、懸念しているのは今までなかったようなゴミが急に増えること。波川では役場も対応に苦勞していることを聞いた。想定外のゴミが増えているのも現

状である。できることについては、知恵を絞りながら協力していきたいと考えている。

(大石委員)

仁淀川が水質ランキングにおいて5年連続日本一ということで、全国から注目されている。そういった中で流域7市町村が一緒になって仁淀川流域交流会議で頑張っている。そういった中で、アサヒビール株式会社からパートナーズ協定による協力をいただき、仁淀川漁協、各市町村の皆さまに色々な事業活動をしていただいている。流域7市町村による仁淀ブルー観光協議会も、流域として仁淀ブルーを生かして地域の活性化に取り組んでいる。そういった中で、山づくりや川の環境保全といった、いかに環境を保全していくかが大事だと思っている。仁淀川町は上流域の水源地域であり、町の面積の9割が森林である。森林組合からも話のあったように私どもも森林について力を入れてやっていきたい。また、シンポジウムの在り方についても考えていく必要がある。各市町村や県において、色々な取組や会議が行われているが、非常に錯綜している。それぞれで取り組むことはいいが、一定の整理が必要ではないかと思っている。

(井上副会長)

仁淀川町の観光ガイドもしており、大石委員からも話のあった仁淀ブルー観光協議会と一緒に、5月から12月の間にガイドを133人役行った。1回あたり20人ほどのグループを案内するため、合計で2,000人以上が中津溪谷・安居溪谷を訪れたこととなる。安居溪谷は北海道からのお客さんが多かった。カメラマンの高橋さんも言われていたが、12月から2月のオフシーズンの期間に何かしらの観光を考えてくださいと言われていた。今月の日曜日にも大型バスを利用して中津溪谷に83人お客さんが来る。仁淀川だけでなく、足摺岬や道後温泉といった周りの観光名所とタイアップすることで来てくれるお客さんもいるかと思う。5回計画してそのうち4回来てくれている。料金も結構安いらしく、1人3万円以下で2泊3日の飛行機・バスを利用したツアー、ガイド付きとなっており、お客さんには好評であった。オフシーズンの観光という面ではいろんなところと連携しながら呼び込む必要がある。観光協会のホームページには、旅行先で足摺岬、四万十川、道後温泉の名前はあるものの仁淀川は載っていない。今後はそういったところを宣伝しながらやっていきたいと思う。

(石川会長)

ありがとうございました。私は水生生物が専門ということもあり、県内の小中学生・大学生に水生生物と環境の関係の話をして、いい川とはどんな川かということを考えてもらうような授業をしている。自分の授業を受けてくれた人の中から、将来いい川をつくってくれるような人が1人でも出てきてくれたらよいと思い、日々励んでいる。

流域を盛り上げるため、環境をよくするために、皆さま様々な活動を努力されていると思う。これからも仁淀川清流保全推進協議会に力を貸していただきたい。以上で本日の議事を終了する。

- ・事務局から来年度の全体会の時期及び内容の連絡

閉会